

タマミジンコの培養～梱包までを、画像付きで解説していきます。

培養スタイル

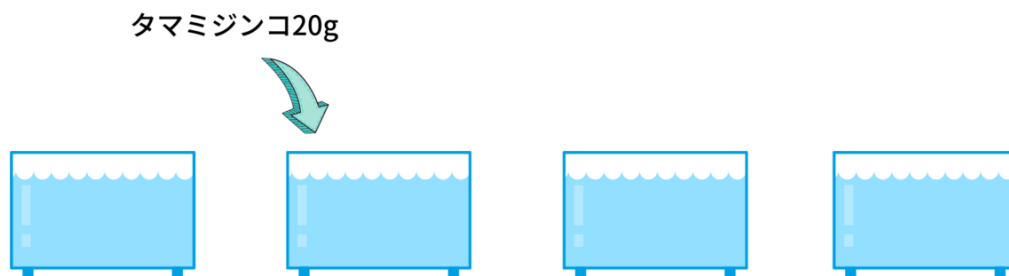
タマミジンコの培養には、【連続培養】と【植え継ぎ培養】があります。連続培養は、定期的に飼育水の一部を交換して維持する方法です。もちろんこれでも増えますが、販売用の在庫を確保するには、ちょっと心もとないです。（水の鮮度が落ちるため）

対する【植え継ぎ培養】は、1回収穫したら水槽をリセットします。タマミジンコ販売では、植え継ぎ培養で増やしていきます。

なぜ植え継ぎ培養にしているかというと、連続培養よりも確実に爆増させる事が可能だからです。（水の鮮度が良いため）それでは、その方法を図解で説明していきます。

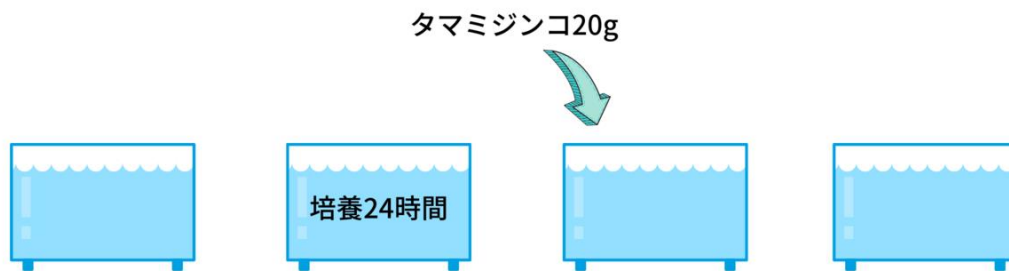
■ 植え継ぎ培養の手順

60 リットルタライを 4 個用意します。



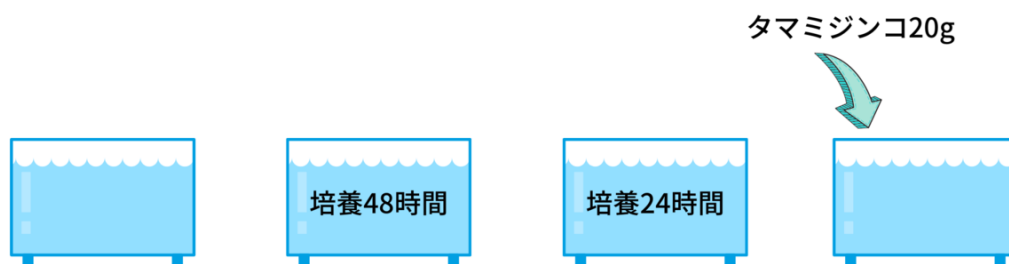
1 日目は、1 つのタライに種としてタマミジンコ 20g を入れます。

2日目



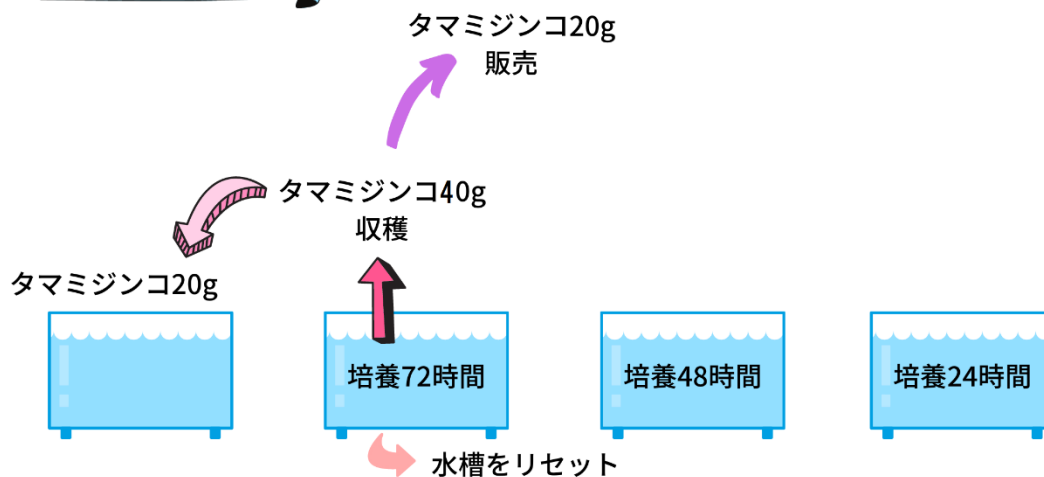
2 日目は、別のタライに種としてタマミジンコ 20g を入れます。

3日目



3 日目は、別のタライに種としてタマミジンコを 20g 入れます。

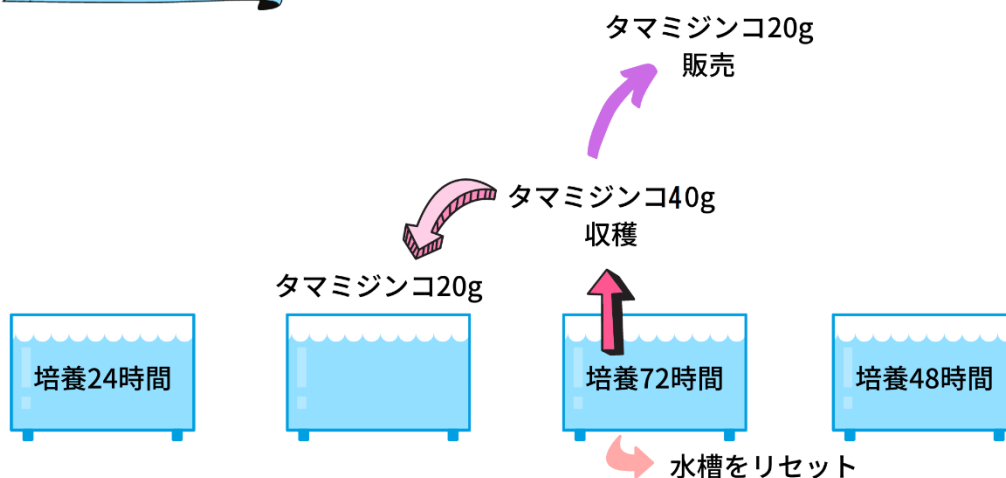
4日目



4 日目は収穫です。最初に仕込んだタライは 72 時間の培養となり、だいたいですがタマミジンコは 20→40g ほどに増えています。

そこから 20 グラム ($5\text{g} \times 4$) を販売し、20g は次の種として新しい水槽へ。余ったら保険にするか、自分で飼育しているメダカのエサにします。メダカを飼っていないなら、販売件数を増やしてください。そして、収穫が終わった水槽はリセットして次に備えます。

5日目



5 日目は隣の水槽から収穫します。作業としては 4 日目と同じです。後はこれをずっと繰り返すだけになります。

タライの数や大きさは、個人でカスタマイズして OK です。カルキ抜き剤を使用すればタライを 1 個減らしても回せますし、水を通すだけでカルキが抜けるマーフィードあたりも便利かもしれません。

今回は分かりやすく 1 日ずつ 20g のタマミジンコを入れましたが、実際にはこのように都合よく準備するのはムリです。なので、4 つのタライで同時に培養を開始して、ある程度増えてきたらこのサイクルにもっていくようにします。

仕入れ



タマミジンコ種水を購入すると、こんな感じで送られてきます。

タマミジンコと書いておきながら【別の種類のみジンコだった】という事例もあります。有名どころからの購入をオススメします。私が仕入れているのは「和香」さんです。

初心者は失敗することが多いので、何度も挑戦できる休眠卵のほうがオススメです。



すぐにタライに入れられない時は、一時的に小さな容器で管理します。その時は全滅を避けるため、複数に分けるようにしてください。

容器の立ち上げ



タライを屋外に設置して、水道水を入れます。エアレーションをかけて1日おけば飼育水の完成です。このエアレーションは、浄化槽用のブロアーを使用しています。パワーがあるので、ストーンを底まで落としてもエアは問題なく出てきます。

パワーが弱いタイプのエアレーションの場合、底にストーンを落とすと水圧に負けてエアが出ないことがあります。そんな時はストーンの水深を浅くすると、エアが出るようになります。



最初のうちはタマミジンコの数が少ないので、水合わせをしたほうが安心です。

購入した種ミジンコを容器ごとタライに浮かべて1時間ほど待ちます。これは水温を合わせる作業です。次に5分間隔で5回ほど、タライの水(200mLくらい)を容器に入れていきます。これは水質を合わせる作業です。

培養が軌道に乗れば大量に繁殖するので、水合わせなしでも数が不足するリスクは少ないです。

餌の与え方

植え継ぎ培養は水をリセットしてしまうので、大量の餌を与えて一気に爆増させることが可能です。

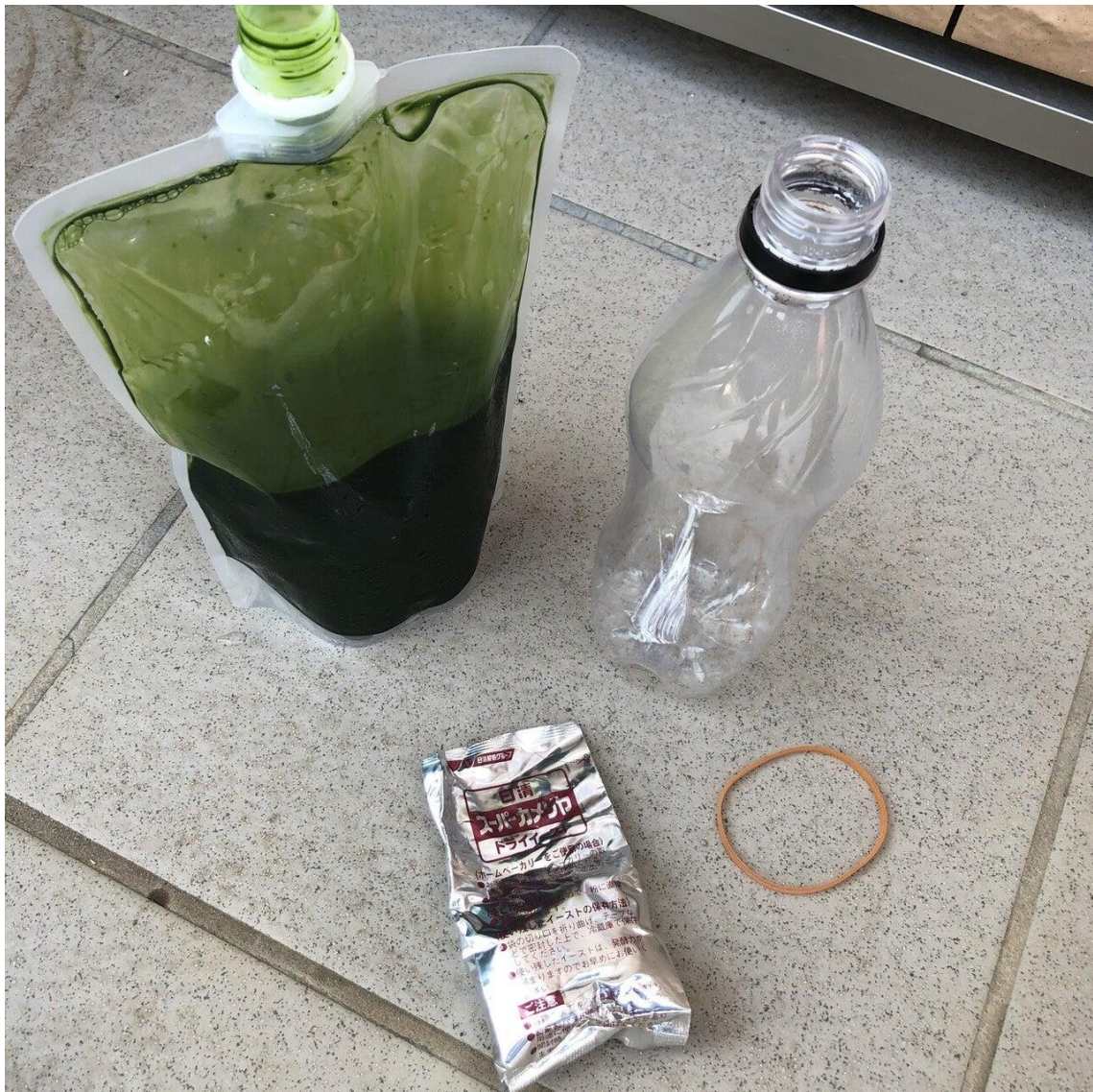


【用意するモノ】

- ・ペットボトル
- ・ドライイースト
- ・生クロレラ
- ・スポイト

具体的には私の運営するサイトに紹介しています。迷った時は参考にしてください。

[ミジンコ副業で最初に必要な物品](#)



餌を与える回数は、生クロレラは1日2回朝夕、ドライイーストは1日1回となります。以下は、20gの種を入れた60Lタライに入れる1回あたりの給餌量の目安です。

◆濃縮生クロレラ 5～10mL

◆ドライイースト 1g

水は急速に汚れますが、3日で収穫してリセットするので問題ありません。種ミジンコが少なかったり、40リットルタライを使用するなら、エサを減らしたほうが良いと思います。少量の餌から開始し、徐々に増やして、一番タマミジンコが増殖する餌量を見極めましょう。



ドライイーストはペットボトルなどを使って、ダマがなくなるまでしっかり溶いてから与えます。



【水溶性ドライイースト】



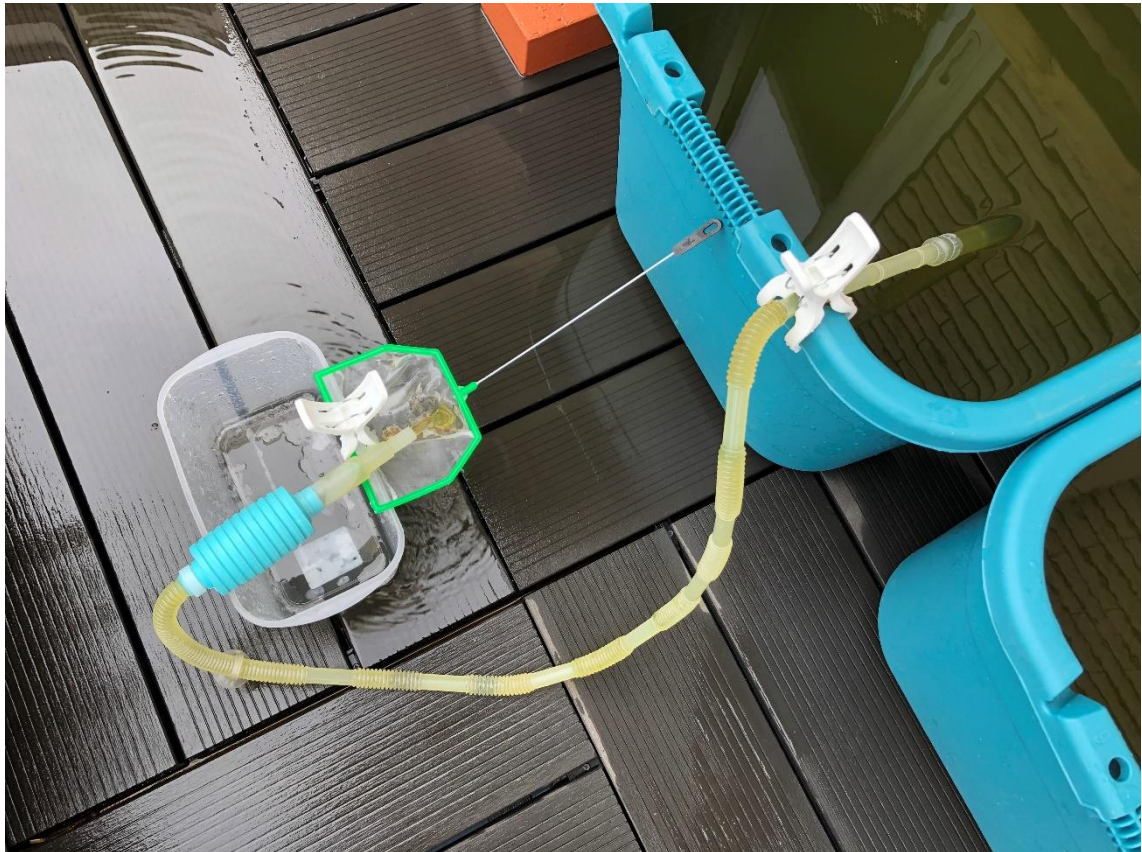
【濃縮生クロレラ】



餌を入れた後は軽く攪拌します。

水換えの方法

タマミジンコの水換えは、毎回リセット(水を全て換える)します。底には沈殿物が貯まっているので、上澄みから吸っていきます。



具体的にはこんな感じです。ポンプの吸水口を水槽の底につかないくらいの位置に固定し、排水口は密網ネットに乗せます。

あとは放置するだけで7~8割の水を抜くことができ、密網ネットにはタマミジンコが回収されます。

タライには2割くらい飼育水が残るので、ポンプを手持ちに切りかえて、沈殿物を吸わないように残りのタマミジンコを吸い取っていきます。

底に残った沈殿物は捨ててしまってもいいのですが、その中にはタマミジンコ休眠卵が大量に混ざっています。キレイに洗浄して分離すれば、卵販売ビジネスへつなげる事もできます。

最後にタライを軽く洗って水を張っておけば、翌日にはカルキも抜けて次の培地になります。

梱包方法



タマミジンコを梱包するためには、上の写真に掲載している物品を使用します。

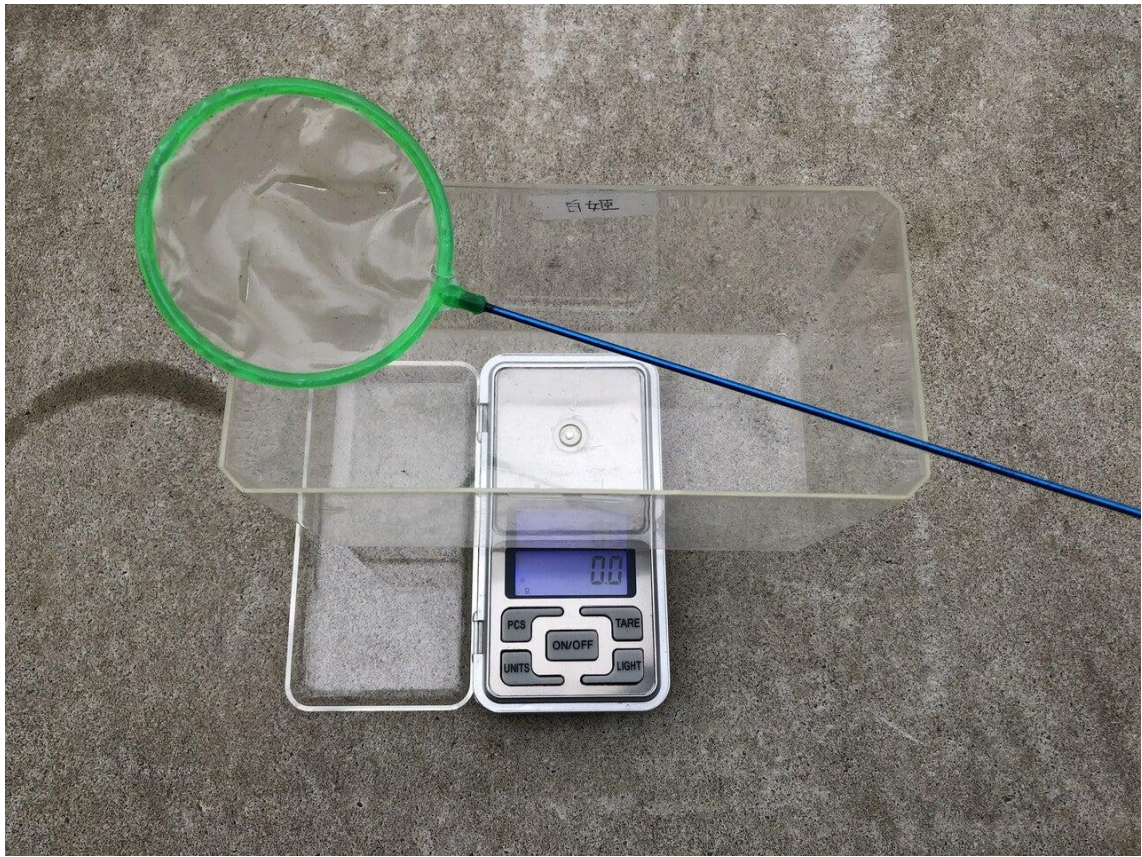
発泡スチロール、観賞魚用ビニール(R-18)、丈夫な輪ゴム、電子天秤、生クロレラ、2リットルの容器、大型のスポイト、酸素ポンベ、密網ネット

具体的には私の運営するサイトに紹介しています。迷った時は参考にしてください。

[ミジンコの梱包に必要な資材](#)



カルキ抜きした水を 1.5L 用意して、その中に生クロレラを 2mL くらい入れます。



水に濡らした密網ネットを電子天秤に乗せ、ゼロ合わせします。



タライからタマミジンコを掬って、電子天秤で出品分を計量します。



予め用意しておいた生クロレラ水に、タマミジンコを入れます。この時、可能な範囲で不純物を取り除きます。写真の赤丸はボウフラです。スポイトなどで吸って捨てましょう。キレイになったら専用のビニールに入れます。



飼育水を 200～300mL ほどすくって、追加でビニールに入れます。確実な根拠はありませんが、新しく作った生クロレラ水よりもタマミジンコの生存率がよかったです。おそらくバクテリアの関係かと思います。



ビニールに酸素を充填します。酸素と空気を半々くらいにすると自然環境に近くなりますし、酸素代の節約にもなります。



ビニールの上部をしっかりねじったら、輪ゴムをひっかけます。



輪ゴムを引っ張りつつ、6～7 回ほど巻きます。



ねじってあったビニールで輪っかを作り、また輪ゴムをひっぱりながら 3～4 回ほど巻きます。



最後にビニールの中に輪ゴムを通して、ビニールの輪っかに引っかければ固定されます。



もう1枚用意していたビニールに逆さまに入れて、同様に輪ゴムで固定します。



発泡スチロールに入れて、ガムテープで1週半固定すれば完成です。ビニール袋を新聞紙でくるむと保温性がよくなります。

これまで輸送中に漏れたことはありませんが、その場合賠償を求められることもあるようなのでキッチリ梱包するようにしてください。

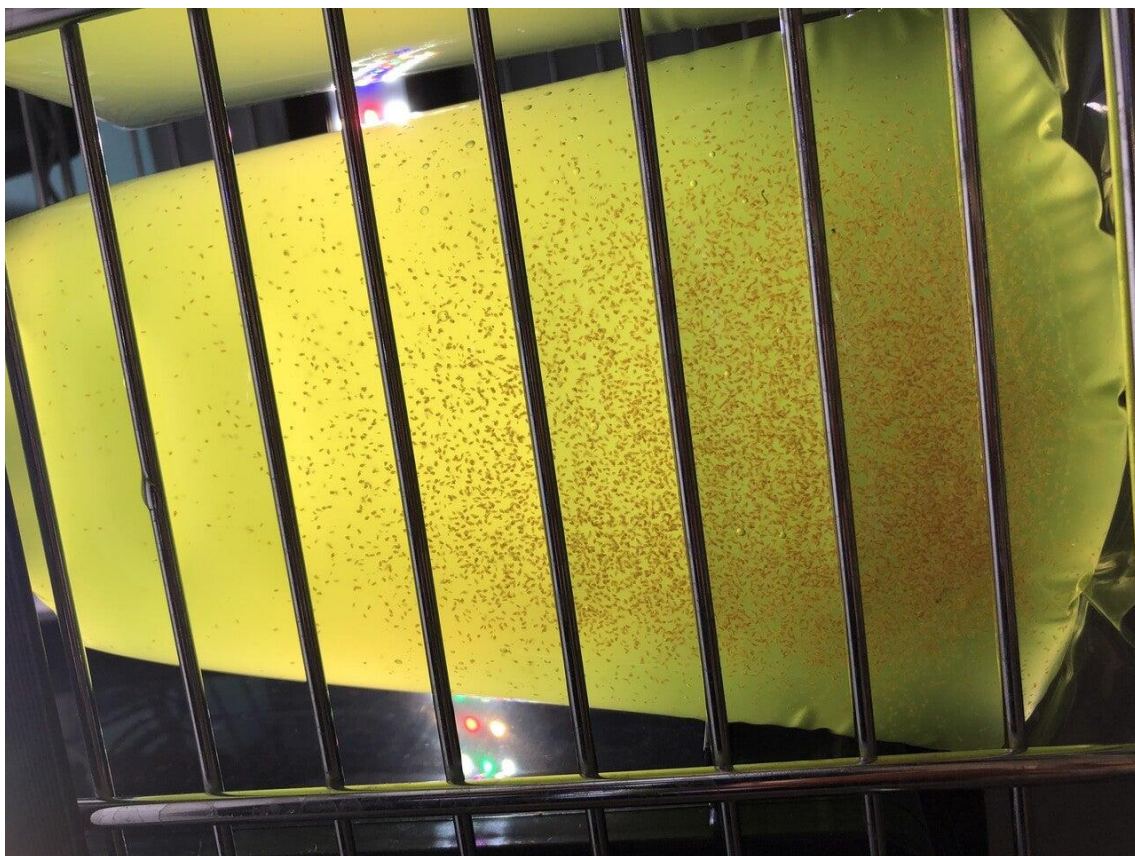
パッキングテスト

パッキングテストは、自宅と発送の2回実施しておくことで安心です。基本的には翌日配達までしか対応できないので、朝に発送するなら36時間くらいの生存確認ができればOKです。

夕方の発送ができる方は、最大30時間くらいでの到着になるはずです。



どのような状態でお客様の手元に届くのかを確認しておくことは大切です。鮮やかな生クロレラ水は少しずつ茶色く退色して、開封時には発酵臭も少しします。



これは真下から撮影しました。全てのタマミジンコが活発ではなく、下に沈んでいる個体もあります。でも、赤っぽいのは生きています。そのあたりの事を事前に説明しておく、不要なトラブルを回避することが可能です。

【特別なお知らせ】

特典をご請求いただいた本気度の高いあなたには、メダカ副業の無料メルマガ講座をご案内しております。詳細は以下リンクをクリックしてご確認くださいませ。出し惜しみなく情報発信してまいりますので、ミジンコ副業と合わせて稼いでいきましょう！ご登録お待ちしております。



[【3ヵ月の無料講座】メダカ副業で初売り上げを目指す！](#)